

令和3年11月16日第2校時

中学校 2年 28名

指導者

1 単元名 傷害の防止

2 単元設定の理由

本単元では、様々な自然災害や事故などの傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることについて理解を深める。また、生徒が傷害の原因と防止策を学ぶことで、その傷害における危険を予測し、回避行動を考える単元である。

2年生は明るく素直な生徒が多く、幼少期から単学級で過ごしてきたこともあり、お互いのことを理解し男女関係なく仲良く過ごす姿がみられる。また、中学校での生徒会活動や部活動を通し、仲間と協力して活動することを学び実践してきた。しかし、生徒一人一人をみると、生徒自らが考えて行動できず、今行動すべきことをできずに、教師や他のリーダーとなる生徒の指示を待つだけの生徒もいる。さらに人の意見に流されやすく、生徒自身で判断し実行できていない生徒もいる。

小学校の保健学習では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血など、自分自身で行える簡単な手当の仕方などを学習している。また、中学校の学校行事でも「まなぼう祭」への参加や防災ボランティアなどの防災学習を行い、災害発生時に関する学習を深めてきた。しかし防災学習では、災害発生時における応急手当などの対応までは学習できていない。

そこで本時は、応急手当の意義や基本、応急手当の一般的な流れを学び、深めさせ生徒一人一人が主体的に実践へとつなげられるように理解させたい。また、次時は消防本部の方を講師にお招きし、胸骨圧迫やAEDを用いた心肺蘇生の実習を行う。次時の実習に向けて、本時では生徒に応急手当に関する学びを深め、生徒一人一人が応急手当を意欲的に実践できるよう理解させ、意識づけさせたい。

3 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようになる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・交通事故や自然災害などの傷害の発生要因や傷害の防止について、理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・傷害が発生した際に、迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止できることを理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED 使用などの心肺蘇生法ができる。	・傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

5 指導計画

第1次	傷害の原因と防止	1時間
第2次	応急手当の意義と基本	2時間（本時1/2）
第3次	交通事故の現状と原因	1時間
第4次	交通事故の防止	1時間
第5次	犯罪被害の防止	1時間
第6次	自然災害に備えて	1時間
第7次	きずの手当	1時間

6 本時

(1)目標

- ・応急手当の基本を理解し、必要な応急手当を理解することができる。

(2)展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 5 分	・前時までの学習を振り返る。	・前時までの学習内容を確認し、振り返らせる。 ・本時の学習内容(めあて)を伝える。		
	応急手当の意義や基本を学んで、必要な応急手当を理解しよう。			

展 開 ① 20 分 ② 20 分 ま と め 5 分	・身近に起こりそうな傷害事例から、ペアで応急手当の仕方を考える。	・身近に起こりそうな傷害事例を挙げ、ペアで応急手当の仕方を考えさせる。		
	・応急手当の意義を学習する。 ・応急手当の一般的な流れを理解する。 ・消防への通報の仕方を学ぶ。 ・事例を通し、応急手当の流れを考える。 ・ペアで、各自が行った応急手当の流れを発表し合い、必要時通報の仕方を練習する。	・資料等を活用し、応急手当の意義を学ばせる。 ・応急手当の一般的な流れを説明し、理解させる。 ・事例を挙げ、応急手当の一般的な流れとともに通報の仕方を学ばせる。 ・事例を通し、応急手当の流れを考えさせる。 ・ペアで各自が行った応急手当の流れを発表させ、必要時通報の仕方を練習させる。	・応急手当の意義を理解することができる。 ・応急手当の一般的な流れを理解することができる。	ワークシート ワークシート ワークシート 観察、発表
	・本時のまとめをする。	・本時のまとめをし、学習内容を振り返らせる。		ワークシート

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・応急手当の意義を理解した上で考え、状況に応じた応急手当の仕方を言ったり、書いたりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現させるための具体的な指導	・教科書や資料、ワークシートを確認しながら、本時の学習を振り返るよう に個別に説明する。